

---

## 2025年度 JWU 女子高等教育センター 活動報告

---

JWU 女子高等教育センターは、本学の建学の精神、教育理念を実現するため、学生の視点に立った継続的な教育改革を教職協働で進め、本学における教育の質の向上に寄与することを目的とし、教学マネジメントの一翼を担う機関として2019年6月1日に設置されました。センター所長と5名のセンター委員及び事務局である教学企画課を中心に学修支援課の協力を得て、教職協働で教育改革に関する検討事項等、教育改革を推進するための幅広い検討と提案を行っています。

2025年度は学修者本位の大学教育の実現に向けた取り組みを推進するとともに、第4期認証評価受審に向けた大学院3ポリシーや、アセスメント・プランの見直しを行いました。また、学修成果の可視化を目的として、新たに大学院授業アンケートの実施、カリキュラムマップの導入、アセスメント科目を対象としたルーブリック評価導入に向けた検討及び提案を行いました。

### 構成員

---

センター所長	和賀 祥	(理学部)
センター委員	西原 直枝	(家政学部)
	差波 亜紀子	(文学部)
	黒岩 亮子	(人間社会学部)
	山下 絢	(人間社会学部)
	北澤 裕明	(食科学部)

### センター会議開催日

---

第1回	2025年 4月10日(木)	
第2回	2025年 5月15日(木)	
第3回	2025年 6月5日(木)	
第4回	2025年 7月18日(金)	
第5回	2025年 7月30日(水)	※メール審議
第6回	2025年 9月25日(木)	
第7回	2025年 10月16日(木)	
第8回	2025年 11月13日(木)	

- 第 9 回 2025 年 11 月 14 日 (金) ※メール審議
- 第 10 回 2025 年 12 月 11 日 (木)
- 第 11 回 2026 年 1 月 28 日 (水) ※メール審議
- 第 12 回 2026 年 2 月 20 日 (金)
- 第 13 回 2026 年 3 月 10 日 (火) ※メール審議

## JWU 女子高等教育センター主催による FD 活動

---

- ・ 2025 年度新任教員対象 FD 研修

開催日：2025 年 5 月 15 日 (木)

- ・ FD セミナー

開催日：2025 年 7 月 17 日 (木)

講 師：東京大学 大学院理学系研究科 准教授 片山 なつ氏

テーマ：授業・研究発表に使える！資料作成に役立つデザインのルール

- ・ エデュ café

第 1 回開催日：2025 年 7 月 25 日 (金)

テーマ：学生の生成 AI の使用について語り合おう

第 2 回開催日：2025 年 11 月 6 日 (木)

テーマ：授業や学生対応に関するお悩み相談

## 主な活動内容

---

- ・ 大学院 3 ポリシーの見直し

2022 年度に実施した大学及び学科の 3 ポリシーの見直しに続き、教育改革の柱である学修者本位の教育の実現を目的として、大学院全体のディプロマ・ポリシーの作成と各専攻の 3 ポリシーの見直しを行いました。実施にあたり、ガイドラインの作成や見直しのポイントを整理し、専攻主任を対象とした説明会を開催しました。2027 年度より新ポリシーの運用を開始する予定です。

- ・ アセスメント・プランの見直し

学修成果とディプロマ・ポリシーとの関連を明らかにし、アセスメントの実施方法や結果の活用方法を明確にするため、アセスメント・プランを見直しました。主な変更点は、卒業論文、卒業研究、卒業制作及び卒論等に付随するゼミ科目をアセスメント科目として位置づけ、卒業時にルーブリックを用いてディプロマ・ポリシーの達成度を評価すること、ディプロマ・ポリシーで掲げた学修成果の評価基準、評価方法及び評価結果の活用方針を具体的に示すことです。新たなアセスメント・プランは 2026 年度より運用を開始する予定です。

・「学科ディプロマ・ポリシー達成度のルーブリック評価」導入

各学科で定める学科ディプロマ・ポリシーの達成度を客観的に測定するため、2026年度よりルーブリック評価の導入を決定しました。新アセスメント・プランでアセスメント科目と位置付けた卒論等及び付随するゼミ科目の活動を通して、学科共通の基準を用いて評価を行います。教員・学生双方で事前に達成基準を共有し、卒業時に学生に対して評価を返却します。実施にあたり、ガイドラインの作成や学生・教員向け実施要領の作成を行った他、学科長向け説明会を開催しました。2026年度からの暫定運用に向けて、ルーブリック評価システムの整備や学生への周知を進める予定です。

・カリキュラムマップの導入

学生が自らの学修成果を正しく把握し、各科目と学科ディプロマ・ポリシーの結び付きを理解して履修計画を作成するため、2026年度よりカリキュラムマップの導入を決定しました。作成にあたり、学修支援課と共にカリキュラムマップの構成や公開方法の検討等を行いました。学修支援課で作成したカリキュラムマップ案を基に各学科及びカリキュラム所管委員会にて内容を確認・修正し、2026年度授業科目のシラバスと同時にカリキュラムマップを公開しました。

・専任教員を対象とした対話型交流会「エデュ café」の開催

教員同士で気軽に相談し、解決策を見出しながら授業に対する負担を軽減すること、また、授業や学生対応、大学教育などに関する語り合いを通じて教員間の交流を深めることを目的として、2025年度より対話型交流会「エデュ café」を開始しました。「学生の生成 AI の使用について語り合おう」、「授業や学生対応に関するお悩み相談」をテーマとし、前期・後期に各1回ずつ開催しました。文系・理系問わず様々な学科の専任教員が参加し、授業改善の工夫や AI 技術への対応等について意見を交わしました。

・大学院学生の達成度自己評価および授業改善のためのアンケートの実施

今年度より内部質保証の一環として、大学院学生の達成度自己評価および授業改善のためのアンケートを実施しました。

・学生の達成度自己評価および授業改善のためのアンケートを用いた授業改善の取組

改善が必要と思われる自由記述コメントを総括し、教育の質保証の観点から対応策を講じる必要がある事例を批判カテゴリで区分し、全授業担当者に注意を促す文書を発信すると共に、ポスターを掲示しました。また、複数の学生から同内容の改善を求められたり、2期以上にわたり改善を求められたりした授業担当者に対しては、学長及び JWU 女子高等教育センター所長の連名で授業改善を促す文書を発信し、対応を依頼しました。

回答率向上を目的として、回答期間中の回答率を掲示したり、学生に向けてアンケートの目的や活用を説明したポスターを掲示したりする等、様々な取り組みを行いました。

・大学院修了時アンケートの実施

学位授与方針で示している学修成果を把握・評価することを目的として、全大学院修了生を対象とした修了時アンケートを実施しました。

・教学 IR の推進

IR の推進の一環として作成している Fact Book を 2025 年度版に更新し、学内に公表しました。入試関連項目については入試結果のデータを PowerBI で閲覧可能にした他、全入試形態の経年の入試データを都道府県別入学者数にも反映し、広報関連項目についてはメディア掲載・放送回数とウェブサイト関連指標を新たに掲載しました。

・新任教員研修の実施

新任教員全員を対象に、学修者本位の教育への転換や本学の教育改革への取り組みを理解してもらうための研修を実施しました。

・初年次教育の実施

2025 年度新生向けの全学的な初年次教育を新生オリエンテーション期間に実施しました。2025 年度新生は全員、三綱領、大学での学び、授業アンケート、ポートフォリオ「マイステップ@JWU」等をテーマに当センターが作成した初年次教育に係る動画を視聴しました。

## 所長メッセージ

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー、以下 DP と略）で示された学修成果が卒業時までどれくらい達成されたかの評価指標は、これまで本学では卒業時アンケートなど学生による主観的な評価が主でした。主観的な評価も意味のあることですが、学生と教員の両方で達成度を客観的に評価し、互いに納得できることが達成度評価としては理想であると考えています。しかし、そのような評価は、学生・教員に大変負担のかかることであり、実施は容易ではありません。これまで当センターでは時間をかけて達成度評価の方法について議論し、そして今年度、ルーブリックを活用した学科 DP 達成度評価の方法を大学執行部会議に提案させていただき、来年度から実施することが決まりました。

このルーブリックを活用した DP 達成度評価のポイントは、本学ではすべての学科で必修としている卒業論文・卒業研究・卒業制作（以下、卒論等と略）ならびにそれに付随する演習科目をアセスメント科目と位置付けていることです。そして、卒論等を、それまでに修得した知識・技能ならびに汎用的能力など様々な力が発揮される機会であると捉え、卒論等

で直接指導するゼミ・研究室の教員が共通の基準で評価することも重要な点です。評価にあたっては、卒論等の出来栄を評価するだけのものではなく、あくまでも卒論等および演習科目での学生の取り組みを見て、学生が身につけた力を総合的に評価するという点を忘れてはいけません。

なお、この新しい DP 達成度評価によって、学科 DP で示されたすべての力や態度・姿勢を評価できる訳ではありません。評価できない部分については、これまで通り卒業時アンケート、授業アンケートならびにマイステップ@JWU（ポートフォリオ）などを活用して補填しつつ、今後検討していきたいと考えています。

学科 DP ルーブリックには、学科 DP をさらに細分化し、複数の達成レベルを設定してより具体的な達成基準が明示されています。このルーブリックによって、学生にとって目標が明確になるばかりではなく、指導する教員にとっても、担当する演習科目や卒論等において指導の方向性がより明確になるのではと考えています。今後、学生の学ぶ意識と教員の指導する意識の両方で良い効果がもたらされることを期待しています。

最後に、学科 DP ルーブリックに示されたことは、卒業するまでに学生が身につけるべき力を学科ごとに具体的に示したものとなりますが、それさえ成し遂げればよいという認識を持たれることは本意ではありません。本学の三綱領にあるように、学生一人ひとりが自分を見つめて自分なりの目標を定め、また、可能性を広げる不断の努力が重要であることは言うまでもありません。